

英語科目についての概要

総合英語について（必修科目：1、2 年次）

1. 目的および目標

1、2 年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1 年次）については、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養だけでなく、英作文とプレゼンテーション技能の基礎的訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1 年次）は、総合英語 A I / A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に 4 技能を訓練する。読解力については、ペンギン・リーダーズ (level 4) やオックスフォード・ブックワームズ (stage 5) などの国際的な読解レベルを目標としている。

総合英語 C I / C II（2 年次）は、総合英語 A I / A II や B I / B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。さらに、上級英語（選択科目）や各学科の英語科目への橋渡しとなる科目でもある。なお、GPA の高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話、作文とプレゼンテーション。）

総合英語 B（読解を中心とする 4 技能。聴解、作文、プレゼンテーションなども行なうことがある。）

総合英語 C（総合英語 A、B を発展させた内容。三つのテーマからの選択制。）

3. 履修上の注意

- 1) 出席率が 3 分の 2 以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第11条 2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず担当教員に事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

中級英語について（選択科目：1 年次以上）

1. 目的および目標

総合英語 A、B と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。意欲的な学生に幅広く対応している。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、視聴覚授業、海外語学研修準備講座、等を随時展開している。外国人と日本人教師の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1) 同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を 2 コマなど）
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について（選択科目：2 年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1) 履修する学生は、総合英語 A と B を履修していることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
 - 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
 - 3) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を 2 コマ、など）
 - 4) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
 - 5) TOEIC スコア（600 点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。
- （注）大学院においても英語（ラックストン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡をとること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton, Robert Long, Chris O' Sullivan,
Gareth Steele, Andrew Watt, Mason Lampert,
Andrew Gallacher, Huw Tyler, Akiko Kuriyama,
Michael Berg, Judith Johnson

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- To practice the writing of English paragraphs and compositions (a few short essays to be submitted, with presentation)
- To develop the confidence of students about spoken English and in giving presentations.

4. 授業計画

- Self-introductions.
- Meeting new people.
- Describing people.
- Talking about family.
- Talking about daily activities.
- Frequency adverbs.
- Talking about likes and dislikes.
- Describing locations.
- Giving directions.
- Describing places.
- Talking about past activities.
- Talking about jobs.
- Presenting yourself.
- Review
- Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 17:00)
虹林 慶（日本語対応）niji@dhs.kyutech.ac.jp (Room 313
General Education Building) 火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00)

総合英語 A II Comprehensive English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long, Ian Ruxton, Chris O' Sullivan,
Gareth Steele, Andrew Watt, Mason Lampert,
Andrew Gallacher, Huw Tyler, Akiko Kuriyama,
Michael Berg, Judith Johnson

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- To practice the writing of English paragraphs and compositions (a few short essays to be submitted, with presentation)
- To develop the confidence of students about spoken English and in giving presentations.

4. 授業計画

- Getting information.
- Making an invitation.
- Talking about plans.
- Making announcements.
- Making predictions.
- Asking about prices.
- Shopping.
- Talking about emotions.
- Expressing opinions.
- Following instructions.
- Giving instructions.
- Listening strategies.
- Communication strategies.
- Review
- Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 17:00)
虹林 慶（日本語対応）niji@dhs.kyutech.ac.jp (Room 313
General Education Building) 火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを覚えるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
第2回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
第3回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
第4回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 III
第5回 新聞・雑誌の英語 I
第6回 新聞・雑誌の英語 II
第7回 新聞・雑誌の英語 III
第8回 新聞・雑誌の英語 IV
第9回 エッセイの英語 I
第10回 エッセイの英語 II
第11回 エッセイの英語 III
第12回 エッセイの英語 IV
第13回 プレゼンテーション I
第14回 プレゼンテーション II
第15回 総評

5. 評価の方法・基準

平常点（30％）小レポート（40％）期末レポート（30％）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行う。十分な評価を得られなかった場合には、メイクアップをすること。
- ・自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・HP：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 7 Hydrogen Beer
3. “
4. 発表
5. Topic 14 Knowing Where You Stand
6. “
7. 発表
8. Topic 19 South Korean Moms Pray for Student Success (I)
9. Topic 20 South Korean Moms Pray for Student Success (II)
10. Topic 19, 20の続き
11. 発表
12. Topic 22 Okinawans
13. “
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40％、発表 10％、期末試験 50％で評価する。総合評価で 60％以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 教科書・参考書

- 教科書：1. Snapshots of Life Today（朝日出版社）
ISBN：4255153671
2. What Are Your Travel Plans（松柏社）
ISBN：9784881986073

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Animals are Moral Beings
2. Animals are Moral Beings
3. Obscenity and the Public Eye
4. Obscenity and the Public Eye
5. Pushing Free Trade
6. Pushing Free Trade
7. Lindows vs. Windows
8. Lindows vs. Windows
9. Female Students Dog-tired
10. Female Students Dog-tired
11. Dad's Lack of Parenting
12. Dad's Lack of Parenting
13. Stopping Spam
14. Stopping Spam
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long: Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido) ISBN: 479190544X
2. Practical Situations for the TOEIC Test Listening (Seibido) 830.7/Y-32

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）
上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
総合システム工学科・マテリアル工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。また、リスニングについては、英語でのコミュニケーションに必要な語彙だけでなく、コンテキストの理解を助ける教材を用いることで、実用的な力を身につけることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. George Orwell
3. Elisabeth Kubler-Ross
4. O. Henry
5. George Gissing
6. Ernest Hemingway
7. Rachel Carson
8. Review Test 1
9. William Wilkie Collins
10. Henry David Thoreau
11. William Somerset Maugham
12. Arthur Waley
13. Winston Churchill
14. Willaim James
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：『名文で養う英語精読力』（研究社）
ISBN：9784327421793
参考書：新版研究社英和辞典（辞書を持たない人に）
Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6/4
（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

さまざまな国内外の時事問題に関するやや長めの英文を精読することを中心とし、既習の文法や構文を復習していく。毎回、内容に関するいくつかの記述問題を課すとともに、音読やリスニングを行うことで、生きた「言葉」である英語の総合的なスキルアップを目指す。

2. キーワード

読解力、語彙力増強、時事英語

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/Unit 1: Mona Lisa-- A Mysterious Painting
2. Unit 1: Mona Lisa-- A Mysterious Painting
3. Unit 2: Giving Haitians a Picture of Health
4. Unit 3: The Asia Cup 2011
5. Unit 4: TOKIO and Dankichi
6. Unit 6: Free Energy
7. Unit 7: What's the Most Difficult Language?
8. Unit 8: 1000 Awesome Things
9. Unit 9: Triumph of Faith and Will
10. Unit11: The Young Volunteers
11. Unit12: Job-hunting System Needs Work
12. Unit13: Simple Writing Exercise & Erasing Anxiety
13. Unit14: A Happy Coexistence
14. Unit15: The Eiffel Tower
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Vision（三修社）

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：電気電子・応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

高校までに培ってきた英語の能力を維持し、かつさらに高めるため、様々なトピックの英文を経験することを第一目標とし、その書かれたものをいかに読み解くか、自己の知識・経験を基に考えることを次なる目標とする。

また、テキストで日本を客観的に読み解くことで、日本の社会的状況を理解し、それを表現する英語能力を獲得することも目指す。

2. キーワード

読解力、メディア・リテラシー、多文化理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。
- ・日本について、英語で表現する技能を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 Herbivorous Males
- 第3回 Chapter 2 Galapagized Japan
- 第4回 Chapter 4 Universities in Japan
- 第5回 Chapter 5 English as a Lingua Franca
- 第6回 Chapter 6 Disaster Spirit
- 第7回 Chapter 7 Immigrants Needed
- 第8回 Chapter 8 Manga
- 第9回 Chapter 9 Lacks of Entrepreneurs
- 第10回 Chapter 10 Fewer Japanese Students Studying Abroad
- 第11回 Chapter 12 Japanese Quality Food
- 第12回 Chapter 13 Craze Culture
- 第13回 Chapter 14 Monster Parents
- 第14回 Chapter 15 Good News Japan
- 第15回 定期試験

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100%とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60%として評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必要とし、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合は出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：Good bye, Galapagos (CENGAGE Learning)

8. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレスはオリエンテーションで伝えます）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

現代のアメリカにおける社会的現象や出来事を教材として取り上げ、21 世紀においてアメリカ社会がどのように変遷をとげるのか、着眼していく。実用的なリーディング技能、リスニング技能を効果的に養い、さらに英文法力を十分に駆使し、英語の論文などを正確に読みこなす適確さを身につける。

2. キーワード

アメリカ社会理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング、リスニング、音読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Education: The Popularity of the Japanese language
3. Unit 2 Education: The Job Search for College Seniors
4. Unit 3 Entertainment: Visiting the Birthplace of Jazz
5. Unit 4 Entertainment: What Makes Hollywood Films Wonderful?
6. Unit 5 Society: Is Illegal Immigration a Problem?
7. Unit 6 Society: Gun Control: Two Opposing Sides
8. Unit 7 Business: Wall Street After 9/11
9. Unit 8 Business: The Future of the Auto Industry
10. Unit 9 Sports: Major League Dreams and Odds
11. Unit 10 Sports: F1 Racing Comes to America!
12. Unit 11 Environment: Environmental Champions Muir and Pinchot
13. Unit 12 Environment: Balancing Growth and Protectionism
14. Unit 13 Women's Movements: The Leadership of Female CEO's
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・アメリカの政治、経済産業、教育や社会全般について英字新聞を読んだり、英語のニュースを聞いたりすることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：American Dynamics（金星堂）

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・

総合システム工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニング&クエスチョンも行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 発表と評価
- 第3回 発表と評価
- 第4回 発表と評価
- 第5回 発表と評価
- 第6回 発表と評価
- 第7回 発表と評価
- 第8回 発表と評価
- 第9回 発表と評価
- 第10回 発表と評価
- 第11回 発表と評価
- 第12回 発表と評価
- 第13回 発表と評価
- 第14回 発表と評価
- 第15回 総評

5. 評価の方法・基準

平常点（30%）発表（30%）期末試験（40%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。本文中の疑問点はオフィス・アワーを利用して解決しておく。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

- ・辞書
- ・授業で使用するプリントは H P に掲載するので、各自で確認し用意すること。

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1 The Slippery Case of the Missing Butter
3. "
4. 発表
5. Topic 2 By Bike round Australia (I)
6. Topic 2 By Bike round Australia (II)
7. Topic 2まとめ
8. 発表
9. Topic 4 From Why Write?
10. "
11. 発表
12. Topic 8 Change of Heart (I)
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べること。

7. 教科書・参考書

- 教科書： 1. Snapshots of Life Today（朝日出版社）
ISBN：4255153671
2. Experience an English Program!（松柏社）
ISBN：4881985752

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown Up Yet?
4. Are We Grown Up Yet?
5. Systems is Washing Ph. D Brainpower
6. Systems is Washing Ph. D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long: Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido) ISBN: 479190544X
2. Practical Situations for the TOEIC Test Listening (Seibido) 830.7/Y-12

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。また、リスニングについては、英語でのコミュニケーションに必要な語彙だけでなく、コンテキストの理解を助ける教材を用いることで、実用的な力を身につけることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Kurt Vonnegut
3. Yoko Ogawa
4. Rachel Carson
5. Jared Diamond
6. Ian Buruma
7. Micheal Harrington
8. Bob Herbert
9. Review Test 1
10. Doug Atchison
11. Cynthia Ozick
12. Roy Richard Grinker
13. James Hogg
14. Virginia Woolf
15. Review Test 2
16. Reivew

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：WISH（研究社）ISBN：9784327421748

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書
に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

社会のさまざまな分野のトレンドに関する幅広いトピック英文を素材に、要点を把握しながら速読、速聴力を養成していく。同時に、それぞれのトピックに関連した内容についての TOEIC 形式のリスニングも行う。

2. キーワード

メディア英語、読解力、聴解力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/ Chapter 2: 鉄ちゃんの聖地
2. Chapter 2: 鉄ちゃんの聖地
3. Chapter 3: プロボノが社会を変える
4. Chapter 4: 斜陽銭湯の活性化の秘策
5. Chapter 6: 仏が手を貸す地域復活
6. Chapter 7: 電子書籍時代の幕は開いたけれど
7. Chapter 8: 育メンはトップから
8. Chapter 12: 自販機大国の最新事情
9. Chapter 13: こんな所で昭和にタイムスリップ
10. Chapter 14: 中小企業のキラリと光る新技術
11. Chapter 15: 殿方も身をやつす
12. Chapter 20: ハイテクトイレは日本の自慢
13. Chapter 21: 産学官一体で殴り込む
14. Chapter 22: 今や企業は英語が必須ツール
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30％）、小テスト（20％）、期末試験（50％）総合評価で 60％以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHK のラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Social Trends（三修社）

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：電気電子・応用化学（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
 担当教員名 田吹 香子

1. 概要

変化を止めないアメリカ社会の実情を英文で読み、詳しく知ること、自らが抱くイメージといかに当てはまり、いかに異なるかを考える。

書かれたものを読んで全体的に理解することが大事だが、一年次であるので英語の能力を落とさないように、基本的な文法などもチェックしていく。

2. キーワード

読解力・ディクテーション能力、現代アメリカ事情

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・社会情報を収集する能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Education: The Popularity of the Japanese Language
3. Unit 2 Education: The Job Search for College Seniors
4. Unit 4 Entertainment: What Makes Hollywood Films Wonderful?
5. Unit 5 Society: Is Illegal Immigration a Problem?
6. Unit 6 Society: Gun Control: Two Opposing Sides
7. Unit 7 Business: Wall Street After 9/11
8. Unit 8 Business: The Future of the Auto Industry
9. Unit 9 Sports: Major League Dreams and Odds
10. Unit 10 Sports: F1 Racing Comes to America!
11. Unit 12 Environment: Balancing Growth and Protection
12. Unit 13 Women's Movements: The Leadership of Female CES'S
13. Unit 14 Women's Movements: Today's Feminist Movement
14. Unit 15 Politics: The Rise of Neo-conservation
15. 定期テスト

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必要とし、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合は、出席とみなさない。
- ・現代アメリカについての理解を深めるために、観光案内書、テレビ、ビデオ、その他資料に触れておくことが望ましい。

7. 教科書・参考書

教科書：Amrican Dynamics（金星堂）

8. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレスはオリエンテーションの時に伝えます）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
 担当教員名 江口 雅子

1. 概要

今日のアメリカが抱えている問題を取り上げ、いまのアメリカの真の姿を浮き彫りにする。リーディング技能、リスニング技能を効果的に養い、欧米的な論理展開を理解し、全体の流れをつかむことを目指す。前期同様、英文法力を十分に駆使し、英語の論文などを正確に読みこなす適確さを身につける。

2. キーワード

アメリカ社会理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング、リスニング、音読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Lesson 1 Laughing Matters
3. Lesson 2 A Spreading Problem
4. Lesson 3 Juneteenth
5. Lesson 4 Father's Day
6. Lesson 5 Watch Your Language
7. Lesson 6 A New York State of Mind
8. Lesson 7 Illegal
9. Lesson 8 Living with Animals
10. Lesson 9 Speaking of Facebook
11. Lesson 10 What Men Want
12. Lesson 11 Don't Shoot!
13. Lesson 12 Good Question
14. Lesson 13 Making the Grade
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、活動参加・発表点 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・アメリカの政治、経済産業、教育や社会全般について英字新聞を読んだり、英語のニュースを聞いたりすることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：U.S.A. Update（南雲堂）

参考書：リーダース英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとめた文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation (1)
- 第3回 Explanation (2)
- 第4回 Explanation (3)
- 第5回 Essay (1)
- 第6回 Essay (2)
- 第7回 Essay (3)
- 第8回 Critiques (1)
- 第9回 Critiques (2)
- 第10回 Critiques (3)
- 第11回 Projects (1)
- 第12回 Projects (2)
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- ・三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・自主学習として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 1. インTRODakShION
- 2. Unit 1 My Club Activities
- 3. Unit 2 How Committed Are You to Learning English?
- 4. Unit 3 What Do You Want to Do with Your Life?
- 5. Unit 4 My Part-time Job
- 6. Unit 5 How Do You Keep Fit?
- 7. アウトライン発表会
- 8. スピーチ・コンテスト 予行演習
- 9. スピーチ・コンテスト
- 10. スピーチ・コンテスト
- 11. スピーチ・コンテスト
- 12. スピーチ・コンテスト
- 13. スピーチ・コンテスト
- 14. スピーチ・コンテスト
- 15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書: Your First Speech and Presentation (南雲堂) 836.7/T-1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：共通教育棟 S408)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The March of the Microbes
3. Genetic Doping
4. Ethics in Science
5. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
6. World Population
7. After the Peak Oil Crash
8. Starvation, Famine and Hunger
9. Nanotechnology
10. Efficient Cars
11. Cyborgs
12. Identity Theft
13. Chaos Theory
14. Comets, Meteors and Asteroids
15. Space Stations and Outer Space Exploration

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。(私語、内職、携帯電話等は厳禁。)
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Bruce Allen: Imagining Tomorrow (Seibido)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

ものごとについて考えることを促す英文に触れ、英語での思考がどのようなものか考え、英文理解についてもレベルアップを目指す授業である。

2. キーワード

異文化理解、エッセイ、批判的思考

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Garden of Eden
3. The Garden of Eden
4. The Top Hat
5. The Top Hat
6. The Myths
7. The Myths
8. Review Test 1
9. The Natural Philosophers
10. The Natural Philosophers
11. Conversion
12. Democritus & Fate
13. Democritus & Fate
14. Socrates
15. Socrates
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条 2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Sophie's World (研究社)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

ISBN：4327063126

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 C I (アドバンスト) Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

現代文化の諸問題について、英語で読み、聞き、話し、書く練習をなるべく多く行い、実践力を身につけることを目指す。

2. キーワード

ディスカッション、時事問題、批判的思考

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. American Supremacy
3. Art as a Joke
4. Fashion Statement
5. Fighting AIDS
6. Food Safety
7. Review Test 1
8. Global Control
9. Male Crisis
10. Marriage
11. National Stereotypes
12. Racist Superheroes
13. Small Planet
14. Test-tube Babies
15. Review Test 2

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Advanced (Macmillan)

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00) (総合教育棟 3 階: S313)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

イギリス生まれの Roald Dahl (1916-1990) の短編を読む。Dahl は、2005 年に映画化された“Charlie and the Chocolate Factory”(Tim Burton 監督、Jonny Depp 主演)の原作者であり、学生には身近な作家と思われる。Dahl の冴えた描写力と、巧みな話しの展開を存分味わわせ、合わせて原書読解能力を向上させる。現代英語の標準的なもので書かれた Dahl の短編作品を通じ、学生の異文化理解を促す。

2. キーワード

イギリス社会理解、リーディング、カルチュラル・リテラシー、描出話法

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション(作家Roald Dahlについて)
2. “Parson's Pleasure” ①
3. “Parson's Pleasure” ②
4. “Parson's Pleasure” ③
5. “Parson's Pleasure” ④
6. “Parson's Pleasure” ⑤
7. “Parson's Pleasure” ⑥
8. “Parson's Pleasure” ⑦
9. “Parson's Pleasure” ⑧
10. “Parson's Pleasure” ⑨
11. “Parson's Pleasure” ⑩
12. “Parson's Pleasure” ⑪
13. “Parson's Pleasure” ⑫
14. “Parson's Pleasure” ⑬
15. まとめ(作品のとらえ方を検討)

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、充分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業をきっかけに、Roald Dahl の他の作品も読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：ROALD DAHL PARSON'S PLEASURE ダール短篇集(成美堂) ISBN: 4791900065

参考書：リーダーズ英和辞典(研究社)の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス: teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

我々の日常生活に結びついている経済について、お金にまつわる話を通して経済の動きやシステムを英語で学ぶ。日常の語彙だけではなく、ビジネス用語の使い方や表現練習も織り込み、総合的な英語力が身につくことを目標とする。

2. キーワード

日英比較 文化的基礎知識 経済用語の基礎知識 基本的文法力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter I: Money: The Basics I-1/I-2
3. I-3/I-4
4. Chapter II: The Value of Money Constantly Changes II-1/II-2
5. II-3/II-4
6. Chapter III: How companies Work III-1/III-2
7. III-3/III-4
8. III-5
9. Chapter IV: The State of the Economy IV-1/IV-2
10. IV-3/IV-4
11. Chapter V: Economic Systems V-1/V-2
12. V-3/V-4
13. V-5
14. 復習
15. プレテスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 (70%)

出席点 (10%)

受講態度 (20%) により総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：All About Money and the Economy (Asahi Press)

8. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語の使い方に慣れ、聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、学生の多様な興味に対応するため、「留学」「代替教育」「家族」「音楽」など日常的な話題をトピック別に編集してあるテキストを用いる。「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Studying abroad
3. Alternative education
4. Love around the world
5. Music and the mind
6. Think positive!
7. A career in fashion
8. The pressure to look good
9. Health and healing
10. Time for a vacation
11. Great explorers
12. Male and female roles
13. 多読に挑戦 (1)
14. 多読に挑戦 (2)
15. 期末試験

5. 評価の方法・基準

(1) 学期試験—60%

(2) 授業での小テスト—20%

(3) 授業での発表や提出物—20%

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

Craven, M. 著、Reading Keys, (New Edition) Book 2, Macmillan.

ISBN: 9784777363285

その他、適宜プリントを配布する。

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CD を活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、英語耳を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Messenger of Hope
3. Unit 3 Left-hand Serenade
4. Unit 5 Support Across the Pacific
5. Unit 6 Switching Over
6. Unit 7 Micro Miracle Workers
7. Unit 8 Light Savers
8. Unit 9 Sushi Chefs Cast Abroad
9. Unit 10 Drawing in Sales
10. Unit 11 Thinking Outside the Box
11. Unit 12 Value Added Goods Plus Service
12. Unit 13 “Downshifting” on the Rise
13. Unit 14 Lipsmacking Innovation
14. Unit 15 Unearthing Unusual Ingredients
15. 期末テスト

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 6（金星堂）

8. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレスはオリエンテーションで伝えます）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

現在の過剰な情報化社会を考慮し、必要な情報を正確かつ迅速に読み取る「速読」の技術を身につける。困難な時代を生きる若者への問題提起を含めたさまざまな文章を題材に、文法や構文の復習及びリスニングを行い、段階的に英語の総合的なスキルアップを目指す。

2. キーワード

語彙増強、読解力養成、速読技術

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction / Chapter 1 The Powerful Influence of Japanese Culture
2. Chapter 1 The Powerful Influence of Japanese Culture
3. Chapter 2 Revitalizing Japantown in San Francisco
4. Chapter 3 Disney's World
5. Chapter 4 The Ups and Downs of Life
6. Chapter 5 The Healing Power of Music
7. Chapter 6 The Healing Power of Nature
8. Chapter 7 Like Asking for the Moon
9. Chapter 8 Is Chaplin a Genius or a Hard Worker?
10. Chapter 9 Pioneers
11. Chapter 10 Architects of the First Rank
12. Chapter 11 Do Something Different from Others
13. Chapter 12 Make the Best of the Situation
14. Chapter 13 Merits and Demerits as Two sides of the Same Coin
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習・復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHK のラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：People with Bright Prospects for the Future（三修社）

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

日々新しい研究結果がオンラインジャーナルや多数のジャーナルで発表されている現状において、将来自身の研究を進めていく際、また就職後もそれらを英語で読みこなしていなければならない。そのため、本授業では、インターネットや英字新聞など、さまざまなメディアの英語に触れ、訳読中心ではなく、英文だけで内容や意図などを捉えられるようになることを目標にする。毎時間単語テストを行い、語彙力を増やす。さらに、授業では速読ができるようにする。辞書を必ず持参すること。

2. キーワード

メディアイングリッシュ、リーディング、リスニング、速読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション・Chapter 1 10代はケータイが大好き
2. Chapter 2 鉄ちゃんの聖地
3. Chapter 4 斜陽銭湯の活性化の秘策
4. Chapter 5 フェアトレードで国際貢献
5. Chapter 7 電子書籍の幕は開いたけれど
6. Chapter 9 世界の中心はどこ？
7. Chapter 10 繊維を木材に変えた男
8. Chapter 12 自販機大国の最新事情
9. Chapter 13 こんな所で昭和にタイムスリップ
10. Chapter 14 中小企業のキラリと光る新技術
11. Chapter 16 健康も美容もハイテクで
12. Chapter 19 日本力を発信せよ
13. Chapter 20 ハイテクトイレは日本の自慢
14. Chapter 22 今や企業は英語が必須ツール
15. Chapter 23 サイボーグ昆虫のアレコレ・まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点することがある）。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Social Trends（三修社）

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 中村 幸子

1. 概要

リスニングを中心課題に据えた、ニュースの視聴覚教材を使います。ニュースは NHK 衛星放送の NEWSLINE から採択されたもので、いずれも身近な問題が各章のテーマとなっています。リスニング問題、内容把握のための問題の他、シャドウイングにも力をいれます。語彙や熟語に関する小テストも行います。テキスト付属の DVD を使った十分な予習が要求されます。

2. キーワード

聴解力 読解力、語彙力、表現力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- Unit 1 Messenger of Hope 震災からの復興を目指して
- Unit 2 Swim-assist Suits 楽に泳げる水着
- Unit 3 Left-hand Serenade 左手の曲に秘められた思い
- Unit 4 Picture Card Comeback 紙芝居ふたたび
- Unit 5 Support Across the Pacific 「がんばれ日本！」米国からのエール
- Unit 6 Switching Over ご当地電気自動車
- Unit 7 Micro Miracle Workers 納豆菌で水質浄化
- Unit 8 Light Savers 節電の切り札、LED レンタル
- Unit 9 Sushi Chefs Cast Abroad すし職人、海外へ
- Unit 10 Drawing in Sales 広告マンガ人気
- Unit 11 Thinking Outside the Box アイディア枡で乗り切る
- Unit 12 Value Added Goods Plus Service 頼れる電気店
- Unit 13 “Downshifting” on the Rise 「スローライフ」の魅力
- Unit 14 Lipsmacking Innovation カップに付かない口紅
- Unit 15 Unearthing Unusual Ingredients 希少食材を求めて

5. 評価の方法・基準

原則として、期末テスト 60%、平常点 40% の総合点で評価し、総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・予習、課外学習
- 1. 初回の講義より、教科書、辞書、ノート必携
- 2. 十分な予習が必要
- 3. ラジオ、TV、ネット上の学習サイトの積極的な活用を勧める
- ・注意事項
- 1. 全体の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。遅刻、早退は 3 回で欠席一回とみなす。
- 2. 飲食（チューイングガムも含む）、私語、居眠り（ひどい場合は出席扱いしない）、携帯の使用等を禁止する。

7. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 6—NHK BS English News Stories
：DVD で学ぶ NHK 衛星放送—日本を発信する 6 (Kinseido)

8. オフィスアワー

講義時間前後

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の基本的な運用能力を高めるために色々な場面を想定して、聞く、話す、読む、書くという英語の総合能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Meeting people for the first time.
3. Joining the crowd.
4. I have a favor to ask.
5. You're drunk, Koji.
6. Do men touch each other here?
7. Are you married?
8. So, you want to know about guns?
9. He's cute!
10. What's a stepfather?
11. Many Americans sleep naked!
12. Party tips.
13. Do you sing the National Anthem?
14. Revision
15. Revision

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%), Class participation (33%), Final test (33%).

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Tell me why (Sanshusha)

8. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

時事問題や異文化理解に関するエッセイを読みながら、総合的な英語力の向上を目指す。パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高める。また、各ユニットのテーマに関して、学生の皆さんの意見交換を行なう。適宜に各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションも行い、積極的な授業への参加を期待する。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イン트로ダクション
2. Unit 1: Are schools ready for English?
3. Unit 2: Japanese City's Desperate Cry Resonates Around the World.
4. Unit 4: Wedding gives monarchy, Britons new glow.
5. Unit 5: Villagers bumped aside in global land rush.
6. Unit 6: For women who work in Pakistan, a price to pay.
7. Unit 7: Novel based on late management guru Drucker resonates to the top.
8. Unit 8: Behind China's high test scores, rigid discipline.
9. Unit 11: 'Cheap' bread to cost billions in new Egypt.
10. Unit 13: A friend on Facebook, a problem for universities.
11. Unit 17: Keeping secrets in the age of WikiLeaks.
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ヴェニスの商人』一名場面より
13. 『ヴェニスの商人』のDVD観賞
14. プレゼンテーション①
15. プレゼンテーション②とまとめ

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回、辞書を持参すること。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求める。

7. 教科書・参考書

教科書：English through the News Media (2012 年度版／朝日出版社)

8. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後に。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 斎藤 彩世

1. 概要

世界の文化について英語で書かれた楽しく、やや易しい文章を読むことで、「英語を読む」ことから「英語で読む」状態へと移行することを目指す。また、読むときには、単語のイメージを覚えることで日本語を通さないまま内容を想像できるようになること、新しい語彙を正しい使い方で覚えることを目標にする。さらに、英語の音声を聞き、ディクテーションと内容把握の問題に取り組むことでリスニング力を向上させる。毎回短いライティングの練習も取り入れ、自分の考えていることをその日学んだフレーズで自由に表現できるようにする。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、リスニング、ライティング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Beatles and Popular Music
3. Extreme Sports
4. Roller Coasters
5. Movies? Behind the Scenes
6. 小テスト
7. Sightseeing: Death Valley
8. Beer and Microbreweries
9. Overseas Jobs
10. Movie Reviews
11. 小テスト
12. Television
13. Photography
14. Carnival in Rio
15. Winter Olympics

5. 評価の方法・基準

小テスト、定期試験、授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条 2）
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 教科書・参考書

Video Magazine 1 (John S. Lander, 朝日出版社) ISBN : 9784255154336

8. オフィスアワー

授業時間終了後

メール：citizen_of_somewhere_else@yahoo.co.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

By reading English texts about Britain, to stimulate the curiosity of students and make them aware of inter-cultural issues and differences. This will assist them in future especially if they wish to study or find themselves working in the UK.

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role.
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework (essays and presentations), Tests

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

7. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse)

8. オフィスアワー

Mondays, 12.00 – 2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

To introduce to students the complexity of various social issues and to examine both sides of each issue. Further, to develop students' opinions and their ability to confidently argue their views.

4. 授業計画

1. Food - Conjecture
2. City Life - Skepticism
3. Culture - Comparison / contrast
4. Environment - Validity
5. Work - Explanation
6. Health - Criticism
7. Review / Exam
8. Family - Comparison / Contrast
9. Money - Explanation
10. Gender Issues - Inference
11. Personal Issues - Validity
12. Space - Criticism
13. World Issues - Skepticism
14. Review / Exam

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90% , Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Perceptia Press)

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00 long@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・

建設社会工学科・総合システム工学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとめた文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation (1)
- 第3回 Explanation (2)
- 第4回 Explanation (3)
- 第5回 Essay (1)
- 第6回 Essay (2)
- 第7回 Essay (3)
- 第8回 Critiques (1)
- 第9回 Critiques (2)
- 第10回 Critiques (3)
- 第11回 Projects (1)
- 第12回 Projects (2)
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・自主学習として、図書館のJapan Timesや、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」として「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 7 Smoking Should Be Banned in All Public Places
3. Unit 11 How can We Prevent Suicides?
4. Unit 14 Should the Age of Adulthood Be Lowered in Japan?
5. Unit 15 Should English Be Taught in Primary Schools?
6. Unit 16 Should We Let Children Use Cellphones?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書: Your First Speech and Presentation (南雲堂) 836.7/T-1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室: 共通教育棟 S408)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Apollo Rocket Part II
3. Apollo Rocket Part II
4. Global Warming
5. Global Warming
6. Aurora and the Magnetosphere
7. Aurora and the Magnetosphere
8. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
9. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
10. Solar Cells
11. Solar Cells
12. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
13. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
14. Laboratory Instruments
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414) 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II (アドバンスト)
Comprehensive English C II (Advanced)

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking (批判的思考) 能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

- 4. 社会ニュース
- 5. 科学ニュース
- 6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験・・・20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・60%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：Gillian Flaherty, For and Against (Seibido)
またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目 (総合教育棟 4 階 414)
上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解(構造理解、語彙、文化的な背景)とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 1. Introduction
- 2. Millie (1)
- 3. Millie (2)
- 4. Her First Ball (1)
- 5. Her First Ball (2)
- 6. Men and Women (1)
- 7. Men and Women (2)
- 8. Review
- 9. Mr Sing My Heart's Delight (1)
- 10. Mr Sing My Heart's Delight (2)
- 11. Death Wish (1)
- 12. Death Wish (2)
- 13. Cooking the Books (1)
- 14. Cooking the Books (2)
- 15. The Stolen Body (1)
- 16. The Stolen Body (2)

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Mark Furr, Bookworms Club: Diamond (Oxford)
ISBN: 9780194720083

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)
Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00) (総合教育棟 3 階: S313)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

イギリス生まれの Roald Dahl (1916-1990) の短編を読む。
Dahl は、2005 年に映画化された “Charlie and the Chocolate Factory” (Tim Burton 監督、Jonny Depp 主演) の原作者であり、学生には身近な作家と思われる。Dahl の冴えた描写力と、巧みな話しの展開を存分味わわせ、合わせて原書読解能力を向上させる。現代英語の標準的なもので書かれた Dahl の短編作品を通じ、学生の異文化理解を促す。

2. キーワード

アメリカ社会理解、リーディング、カルチュラル・リテラシー、描出語法

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（作家 Roald Dahl について）
2. “Pig” ①
3. “Pig” ②
4. “Pig” ③
5. “Pig” ④
6. “Pig” ⑤
7. “Pig” ⑥
8. “Pig” ⑦
9. “Pig” ⑧
10. “Pig” ⑨
11. “Pig” ⑩
12. “Pig” ⑪
13. “Pig” ⑫
14. “Pig” ⑬
15. まとめ（作品のとらえ方を検討）

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、活動参加・発表点 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業をきっかけに、Roald Dahl の他の作品も読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Roald Dahl's Short Stories from Kiss Kiss
ダール短篇作品選（松柏社）

参考書：リーダース英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。Longman Dictionary of English Language and Culture ISBN: 0582086760（:pbk）（文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き）

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

自然科学、理工学系に関する英文を読み、その内容把握を問う問題をすることにより、読解力を向上させることを目標とする。
日常生活と密接な関係にある科学技術の話題や自然科学分野の基本的事項についても学ぶ。

2. キーワード

日英比較 科学英語 文化的基礎知識 読解力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

01. オリエンテーション
02. Time Travel: Energy and Electricity
03. The Less You Sleep, the More You Gain
04. Stem Cell Plan for Nuclear Operators
05. Internet Addiction
06. Electric Motors and Generators
07. Bilingualism
08. A One-Way Human Mission to Mars
09. Elasticity and Strength
10. World's Sixth Mass Extinction under Way
11. Prime Numbers, Composite Numbers
12. First Europeans Did Not Rely on Fire
13. Genetic Engineering
14. Tagging White Sharks
15. 期末試験

5. 評価の方法・基準

期末試験 (70%)

出席点 (10%)

受講態度 (20%) により総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Step into the World of Science (Asahi Press)

8. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようにすることを目標とする。内容については、学生の興味に対応するため、特に「人と自然」に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. A real winner (1)
3. A real winner (2)
4. Zoo dentists (1)
5. Zoo dentists (2)
6. Solar cooking (1)
7. Solar cooking (2)
8. Bird girl (1)
8. Bird girl (2)
10. Beagle patrol (1)
11. Beagle patrol (2)
12. Polar bears in trouble (1)
13. Polar bears in trouble (2)
14. 多読に挑戦
15. 定期試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表や提出物—20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：Snapshots from the Globe, HEINLE.

その他、適宜プリントを配布する。

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

カンヌ国際広告祭を受賞したコマーシャルを元に、生活に密着した英語を聞く耳を育てる。また、その背景を英文で読み、全体像を理解することで、日本の文化と他の国の文化の違いに気づく能力、自らの研究分野や広くは人生に役立てる応用力を培い、個々人の考えを広め、深めてゆく。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 1 Meijer- Higher Standard, Lower Prices
3. 3 Anti-Discrimination Campaign
4. 4 McDonald's - King of Fast-Food Restaurants
5. 5 Relax, it's FedEx
6. 6 BMW - A Car beyond Reason
7. 7 Banking for the Filthy Rich
8. 8 Learning Languages
9. 9 Pepsi - Ask for More
10. 10 United Nations Development Programme
11. 11 Disney - Magic Happens
12. 12 Coca-Cola - For Everyone
13. 13 Anti-Smoking Campaign
14. 14 Counterfeit Mini Coopers
15. 定期テスト

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100%とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60%として評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：English in 30 Seconds (南雲堂) ISBN:9784523176183

8. オフィスアワー

授業時間前後

(連絡用メールアドレスはオリエンテーションの時に伝えます)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

随筆、会話、案内文、広告文、小説、詩、論文等のさまざまな文体で書かれた英語に触れ、それに慣れ、使いこなすことを目的とする。同時に、文法力、聴解力のドリルも行い、着実に英語運用能力の養成を目指す。

2. キーワード

多様な英語、読解力、コロケーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction / Fashion
2. Fashion
3. More to Communication than Just words
4. Slang
5. Crossing Borders: The Food We Eat
6. Music: Hip Hop History
7. World Heritage
8. Soccer in Italy: Is it just a Sport?
9. New York, Cairo and Tokyo
10. Eco: An Inconvenience?
11. Study Abroad: Enjoy Other Languages and Cultures
12. A Guided Tour in New York ... Now
13. Volunteering: A Very Special 15-year-Old Girl
14. Health: Work Related Stress
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHK のラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Learn More English, Learn More Styles（三修社）

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

将来、専門の分野に進んだ際、研究に関連した論文、またインターネットで関連する分野の雑誌記事を探すことが必要になってくる。日本語で全て行えるに越したことはないが、最新の論文などはどうしても英語で読む必要が出てくる。そういった現状を踏まえて、授業では理工系英語のリーディングを重点的にを行い、必要となる情報を英語で確実に見つけ出していく練習をする。各ユニットで専門に扱っている内容が異なるため、学生の興味に合う分野を扱うが、専門分野以外の内容にも触れ、幅広く知識を増やしていくようにしてほしい。毎時間単語テストを行い、語彙の定着を図る。また、速読ができるようになることを目標とする。

2. キーワード

科学英語、リスニング、リーディング、速読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション・Chapter 1 Early Life on Earth
2. Chapter 2 Why Did Dinosaurs Become Extinct?
3. Chapter 3 Red List and Cloning
4. Chapter 4 The End of Civilization
5. Chapter 5 Sex Change
6. Chapter 6 Invasive Species
7. Chapter 7 Animals and Magnetism
8. Chapter 8 Man's Best Friend
9. Chapter 9 Prions
10. Chapter 10 Autism
11. Chapter 11 Blood Transfusion
12. Chapter 12 Tackling Pandemics
13. Chapter 13 Fresh Water Crisis
14. Chapter 14 Ecotourism
15. Chapter 15 Natural Disasters・まとめ（学生の興味によって扱うチャプターを変更する場合がある）

5. 評価の方法・基準

原則として、定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点することがある）。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Views（成美堂）

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 中村 幸子

1. 概要

英文を読む力を伸ばすことを中心課題とします。5 名のネイティブ・スピーカーによって書き下ろされた様々なジャンルの文章を読んでいきます。各章ごとに重要な語彙の確認、本文の音読、内容確認のための問題等を行います。

十分な予習が要求されます。語彙に関する小テストも行います。自習用音声は、テキスト内に表示された URL からダウンロードできます。

2. キーワード

読解力、語彙力聴解力

3. 到達目標

- ・英語の基礎能力を身につける。
- ・生の英語素材に慣れる。
- ・多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- Unit 1 Are You Ready for a pet?
- Unit 2 Gap Year
- Unit 3 What Is Wealth?
- Unit 4 Globalization
- Unit 5 What I Learned in College
- Unit 6 How Paper Is Recycled
- Unit 7 Where Do Our Students Come From?
- Unit 8 From 'Snail Mail' to PDAs in Just Twenty Years
- Unit 9 Rules for Success
- Unit 10 Three Ways to Build a More International Company
- Unit 11 A Suitable Hotel
- Unit 12 Another Earth?
- Unit 13 An Interview with New Student Union President
Sarah Kyle
- Unit 14 Modern Writing: Be Brief!
- Rent 15 Control Board Hears Local Concerns

5. 評価の方法・基準

原則として、期末テスト 60%、平常点 40%の総合点で評価し、総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・予習、課外学習
 1. 初回の講義より、教科書、辞書、ノート必携
 2. 十分な予習が必要
 3. ラジオ、TV、ネット上の学習サイトの積極的な活用を勧める。
- ・注意事項
 1. 全体の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。遅刻、早退は 3 回で欠席 1 回とみなす。
 2. 飲食（チューイングガムも含む）、私語、居眠り（ひどい場合は出席扱いしない）、携帯の使用等を禁止する。

7. 教科書・参考書

教科書：Reading Stream: Pre-intermediate
英語リーディングへの道：準中級編（Kinseido）

8. オフィスアワー

講義時間前後

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：The UK and the USA (Compare and Contrast)（南雲堂）830/O-10

8. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

さまざまなジャンルのさまざまなトピックの読み物を通して各ジャンル特有の語彙をはじめ総合的な英語力の向上を目指す。精読から単語、熟語、文法事項の再確認をする。また、パラグラフ・リーディングと共に多読による速読のスキルを身に付ける。プレゼンテーションをする機会を設けることで、分かりやすいハンドアウトの作り方や発表の仕方を学ぶ。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、多読、異文化及び時事問題の理解、プレゼンテーションの仕方

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 2: Slavery.
3. Unit 3: Nuclear Power.
4. Unit 4: Mold.
5. Unit 6: Living Wills.
6. Unit 7: Green Technology.
7. Unit 8: Genetically Modified Food.
8. Unit 9: Gated Communities.
9. Unit 10: Garbage.
10. Unit 12: Chocolate.
11. Unit 13: Surrogate Mothers.
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ハムレット』一名場面より
13. 『ハムレット』のDVD観賞
14. プレゼンテーション①
15. プレゼンテーション②及びまとめ

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回、辞書を持参すること。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求める。

7. 教科書・参考書

教科書：Current Issues and Topics（大阪教育図書）ISBN：9784271113164

8. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後に。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 斎藤 彩世

1. 概要

アメリカの文化について英語で書かれた楽しく、やや易しい文章を読むことで、「英語を読む」ことから「英語で読む」状態へと移行することを目指す。また、読むときには、単語のイメージを覚えることで日本語を通さなくても内容を想像できるようになること、新しい語彙を正しい使い方で覚えることを目標にする。さらに、英語の音声を聞き、内容把握の問題に取り組むことでリスニング力を向上させる。毎回短いライティングの練習も取り入れ、自分の考えていることをその日学んだフレーズで自由に表現できるようにする。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、リスニング、ライティング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. American Food and Wine
3. Baseball
4. The World of Disney
5. Hollywood, California
6. 小テスト
7. The Statue of Liberty
8. The Melting Pot
9. Jazz, Gospel, Blues and Rock&Roll
10. The Rodeo
11. 小テスト
12. Cars and Planes
13. Universal Education
14. Native American Indians
15. Thomas Edison

5. 評価の方法・基準

小テスト、定期試験、授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条 2）
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 教科書・参考書

American Dream (John S. Lander, 朝日出版社) ISBN:4255153205

8. オフィスアワー

授業時間終了後

メール：citizen_of_somewhere_else@yahoo.co.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

By reading English texts about Britain, to stimulate the curiosity of students and make them aware of inter-cultural issues and differences. This will assist them in future especially if they wish to study or find themselves working in the UK.

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test 16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework (essays and presentations), Tests

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

7. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse)

8. オフィスアワー

Mondays, 12.00 – 2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

To introduce to students the complexity of various social issues and to examine both sides of each issue. Further, to develop students' opinions and their ability to confidently argue their views. Students will be expected to post their views on various Internet forums.

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press)

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 – 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 – 5 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅰ Intermediate EnglishⅠ

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- 1) 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。
- 2) 主体的な英語学習の態度を育成する。

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points: a) prepare thoroughly for class b) do writing exercises on your own

60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等 3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う
(工学部学修細則第 11 条 2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.
Research topics using the internet.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅰ Intermediate EnglishⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- Week 1 Explaining Japanese Sports and clubs
- Week 2 Explaining Japanese Music
- Week 3 Explaining Japanese Food
- Week 4 Explaining Japanese Handicrafts
- Week 5 Explaining Japanese Holidays
- Week 6 Explaining Japanese Games
- Week 7 Explaining Japanese Cities and Places
- Week 8 Explaining Japanese Relaxation Practices
- Week 9 Explaining Famous Japanese People
- Week 10 Explaining Japanese Superstitions
- Week 11 Explaining Japanese Animations
- Week 12 Explaining Japanese Arts and Theater
- Week 13 Explaining Japanese Etiquette and Customs
- Week 14 Explaining Japanese Buildings and Gardens
- Week 15 Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90% , Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.
Robert Long. Perceptia Press, Nagoya.

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 - 4 : 00

Tuesday : 12 : 00 - 4 : 00

中級英語Ⅰ Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、スピーチの実践を中心に、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. イン트로ダクション
2. Chapter 1 Herbivorous Males
3. Chapter 2 Galapagized Japan
4. Chapter 3 Uniformity
5. Chapter 4 Universities in Japan
6. Chapter 5 English as a Lingua Franca
7. Chapter 6 Disaster Spirit
8. Chapter 7 Immigrants Needed
9. Chapter 8 Manga
10. Chapter 9 Lack of Entrepreneurs
11. アウトライン発表会
12. スピーチ・コンテスト予行演習
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Good-bye, Galapagos: Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ・ラーニング)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport
11. A star is born... or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points: a) prepare thoroughly for class b) do writing exercises on your own 60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等 3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第 11 条 2）

Watch videos and listen to English tapes in the library. Research topics using the internet.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality/quantity/size/shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

	Topic 1	Topic 2	Topic 3
1	Subdisciplines	Areas of Interest	Problems/solutions
2	Gas turbines	Surveying	Euclidean trans.
3	Heat transfer	Distillation	Signal processing
4	Polymers/plastics	Refrigeration	Solar energy
5	Transformers	Lasers	Combustion engine
6	Corrosion	Soil erosion	Bridges
7	Urban design	Pneumatics	Seismic engineering
8	Elect. resistance	Structural design	Process control
9	Image processing	River channel	Electromagnetism
10	Control theory	Conservation-mass	Law-Thermodynamics
11	High Definition	TV Water purification	Hydraulic engineering
12	Environmental	Tunnels	Highways
13	Electric lights	Artificial intell.	Maglev trains
14	Metals	Ceramics	Plastics
15	Review	Review	Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering Robert Long. Lulu Press. 507.7/L-3

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 - 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

上級英語AⅠ Advanced English AⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning Japanese culture.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- 発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Crazy Fashions the Norm Paired Interviews
2. Marriage Under the Microscope Consultations
3. Wireless Japan Debates
4. My Grandfather's Binbogami Group Work
5. Review Review
6. E-Commerce Surveying
7. Rap and Hip-Hop Music Paired Interviews
8. Review Review
9. Children: A Different Breed Consultations
10. Competitive Sports Debates
11. Women Managers Group Work
12. Social Activists Surveying
13. Review
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN 1 -4116-28039

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：（1）・2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students better express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. More emphasis is on longer and more developed ideas. Fluency is improved with students having well-developed paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning cultural themes from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1.	Family	Focus on questions and answers
2.	Beauty	Focus on assertions and disclaimers
3.	Education	Focus on comments and reflections
4.	Expertise	Focus on comparisons and suggestions
5.	Individualism	Focus on observations and criticisms
6.	Entertainment	Focus on preferences and recommendations
7.	Review and exam	
8.	Exam	
9.	Oligation	Focus on explanations and excuses
10.	Sports	Focus on comparison and complaint
11.	Power	Focus on claims and conjunctures
12.	Dependence	Focus on descriptions and testimonies
13.	Discipline	Focus choices and judgments
13.	Internet Forum	Practice: All speech acts
14.	Review	
15.	Exam	

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 80% Exams 20% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Culture Compass, by Robert Long. Lulu Press. ISBN 978-1-4116-4484-7

8. オフィスアワー

Monday 1:00 – 4:00

Tuesday 1:00 – 4:00

上級英語 B I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科

学年：（1）・2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の3点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 英文読解
- 第3回 議論・発表
- 第4回 英文読解
- 第5回 議論・発表
- 第6回 英文読解
- 第7回 議論・発表
- 第8回 英文読解
- 第9回 議論・発表
- 第10回 英文読解
- 第11回 議論・発表
- 第12回 英文読解
- 第13回 議論・発表
- 第14回 英文読解
- 第15回 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70%）期末課題（30%）

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

辞書を持参すること。

授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する

8. オフィスアワー

・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

・研究室：総合教育棟 410

・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

・H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking（批判的思考）能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

4. 社会ニュース
5. 科学ニュース
6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験・・・20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・60%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）
 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の 3 点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 英文読解
- 第3回 議論・発表
- 第4回 英文読解
- 第5回 議論・発表
- 第6回 英文読解
- 第7回 議論・発表
- 第8回 英文読解
- 第9回 議論・発表
- 第10回 英文読解
- 第11回 議論・発表
- 第12回 英文読解
- 第13回 議論・発表
- 第14回 英文読解
- 第15回 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70%）期末課題（30%）
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する
 辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

上級英語 B II Advanced English B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語のコミュニケーション能力全般のさらなる向上を目指す
が、とりわけスピーキング力の向上に力を入れる。この授業を受
講する学生は、日常会話だけでなく、自分の意見を英語で表現す
ることが求められる。授業の最後には、スピーチ・コンテストを
行なう。この授業を、海外でのコミュニケーションや国際会議で
の発表に役立てて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、パラグラフ・リーディング、国際性

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit03 The Sushi Police
3. Unit04 Fashion&Trends
4. Unit06 Tipping
5. Unit09 Drunks
6. Unit10 Career Women
7. Unit11 Family Budget
8. Unit13 NEETs
9. Unit14 Cram Schools
10. Unit15 Cellphone Use by Minors
11. Unit17 Part-time Jobs
12. Unit18 Choosing Your Careers
13. Unit21 School Lunches
14. スピーチ・コンテスト予行演習
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評
価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

Viewpoints 英語で自分の意見を言ってみよう（三修社）

ISBN：9784384333916

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。

（研究室：総合教育棟 S408）

上級英語 C I Advanced English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' efforts
in class will be evaluated by weekly assignments and
presentations. Extra credit can be earned through writing
presentations and by Internet forum postings. The syllabus
provides a series of social topics for students.

2. キーワード

Communication, debate, critical thinking

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. How do you make a good first impression
2. What makes food taste good?
3. What does it take to be successful?
4. Discussion and fluency review
5. How has technology affected your life?
6. Why do people help each other?
7. Does advertising help or harm us?
8. Discussion and fluency review
9. Why do people take risks
10. How can we make cities better places to live?
11. How can a small amount of money make a big difference?
12. Do people communicate better now than in the past?
13. Discussion and fluency review
14. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格と
する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図
書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業
中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Q: Skills for Success: Reading and Writing (Oxford)

8. オフィスアワー

Monday：1：00－4：00

Tuesday：10：00－5：00

long@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 C II Advanced English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：3・4 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Peace around the World
3. Click Here!
4. What's in the News?
5. Heroes and Villains
6. Review Test 1
7. Family Matters
8. Let's Change the Subject!
9. Adventures in Science
10. Extend Reading 2
11. The Company We Keep
12. Stressed Out!
13. Shock Tactics
14. Extend Reading 3
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Quick Smart English Advanced (Macmillan)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30 ～ 16：00）

（総合教育棟 3 階：S313）

技術英語 I Technical English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Corrosion	L.A. network	Fluid Mechanics	Struct.	Analysis Elect. Resistance
2. Bonding	P-to-P Network	Mechatronics	Seismic Eng.	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams Elect.	Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Net.	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Opt.	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews / Exams				
7. Absorption	Software Eng.	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical chem.	Computer Arch.	Drafting	Fire Protection	Voltage
9. Catalysis	Operating systems	Piping	Geotechnical Eng.	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals/Fitting	Transport Eng.	Microelectronics
11. Chemical reactors	Artificial Intell.	Values	Environmental Eng.	Signal Processing
12. Reviews / Presentations				
13. Reviews / Presentations				
14. Reviews / Presentations				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen, Perceptia Press

8. オフィスアワー

Monday：1：00 ～ 4：00

Tuesday：10：00 ～ 5：00

long@dhs.kyutech.ac.jp

技術英語Ⅱ Technical English Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and writing assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Thermodynamics	Program Paradigm	Aerospace eng.	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	Triodes
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Erosion	Emissions
5. Biochemical Eng.	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Manage.	Hi.-Def. TV
6. Reviews / Exams				
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage	Transmission
10. Polymers	Theories-computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse engineering	Refrigeration	Hazardous Waste	PLC
12. Review				
13. Review				
14. Exam				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Lulu Press 507.7/L-2/2

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 - 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

外国語系科目（初修外国語）

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達的手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母(国)語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることに寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、ともすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知ること、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語AⅡ」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目（各一単位）が選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

入学時の4月に「基礎ドイツ語AⅠ」又は「基礎中国語AⅠ」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更できない。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語AⅠ」（1年前期）、「基礎ドイツ語AⅡ」（1年後期）の2科目が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語AⅠ」（1年前期）、「基礎中国語AⅡ」（1年後期）の2科目が必修となる。

2年次に3科目目を履修する場合、ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」のうち1科目を履修しなければならない。また、中国語を選んだ学生は「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」のうち1科目を履修しなければならない。「基礎ドイツ語B」と「基礎中国語B」はクラス指定になっているので、それぞれ指定のクラスで履修する。「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」、「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」はどのクラスを受講することも可能だが、履修希望者が多い場合は履修を制限する場合がある。また、年度によっては開講されない場合もある。

2年次終了時まで「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」または「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」のどの単位も修得できなかった場合は、3年次以降、学生便覧の別表第1「人間科学科目履修課程表 1.(1)人間科学基礎科目」の備考欄に*印が記載されている外国語科目のうちからどの科目を履修してもよい。

中国語の履修を希望する学生は、第1回目の「基礎中国語AⅠ」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（前期第 1 回～15 回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

話法の助動詞、未来形

動詞の 3 基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

平川要ほか著「改訂版・やさしいドイツ語—総合教材」（同学社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

（1）導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

（2）定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方—分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その 2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

（3）展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 AⅠ の授業では、上記（1）導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
 単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

{0} 発音 Stufe 1

{1} 動詞の現在人称変化（1）／たずね方／2人称のSieとdu
 発音 Stufe 2

{2} 名詞の性と冠詞／seinとhaben／Ihrとmein／定形第2位
 ／否定の語nicht

{3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／
 名詞の複数形／否定冠詞kein

{4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕在問進：話すぞドイツ語 V2（朝日出版社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

第1回～第2回 つづり字の読み方と発音 挨拶をする

第3回～第4回 動詞の人称変化、文の作り方 知り合いになる

第5回～第6回 文法上の性と格 食べ物の注文をする

第7回～第8回 冠詞類 買い物の相談をする

第9回～第10回 不規則変化動詞、命令形 食事の相談をする

第11回～第12回 前置詞の格支配 どこに行くか尋ねる

第13回～第14回 複数形 市場で果物などをかう

第15回 前期のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験 50%、演習 50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕「新生ドイツ文法」V 6 在間進 朝日出版社

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅠの授業では、上記の(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

自己紹介・アルファベット・発音
動詞の現在（1）・定動詞の位置
名詞の性・定冠詞（類）
動詞の現在（2）・重要な3つの動詞
動詞の現在（3）・命令形
不定冠詞（類）
複数形・男性弱変化・非人称主語
人称代名詞・疑問詞
前置詞
接続詞・分離動詞
動詞の3基本形・過去
完了形
話法の助動詞・未来形
形容詞・比較
zu 不定詞・分詞
受動態・再帰動詞
関係詞・接続法

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小阪清行他：新緑のドイツ語（第三書房）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音
動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置
名詞と定冠詞
動詞の現在（2 sein/haben）
動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法
不定冠詞と冠詞類
名詞の複数形・男性弱変化名詞
人称代名詞・疑問詞
前置詞
接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

自己紹介・アルファベット・発音
動詞の現在（1）・定動詞の位置
名詞の性・定冠詞（類）
動詞の現在（2）・重要な3つの動詞
動詞の現在（3）・命令形
不定冠詞（類）
複数形・男性弱変化・非人称主語
人称代名詞・疑問詞
前置詞
接続詞・分離動詞
動詞の3基本形・過去
完了形
話法の助動詞・未来形
形容詞・比較
zu 不定詞・分詞
受動態・再帰動詞
関係詞・接続法

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小阪清行他：新緑のドイツ語（第三書房）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

発音、挨拶表現
動詞の現在人称変化（1）
冠詞と名詞の性と格
複数形
冠詞類、人称代名詞
動詞の現在人称変化（2）、命令形
前置詞、従属の接続詞
複合動詞、再帰、非人称の主語 es
話法の助動詞、未来形
動詞の3基本形、過去人称変化
完了形
形容詞
指示代名詞、関係代名詞
受動態、zu 不定詞、分詞
接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

平川要ほか著「改訂版・やさしいドイツ語－総合教材」(同学社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1 回ないし2 回程度かけて取り扱う（後期第1 回～15 回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

話法の助動詞、未来形

動詞の3 基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

平川要ほか著「改訂版・やさしいドイツ語―総合教材」(同学社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

（1）導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

（2）定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- （3）展開期——豊かな表現をめざして
- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記（2）、（3）の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：前期と同じものを使用する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

{5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化

{6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化

{7} 話法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）

{8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞

{9} 現在完了／話法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕在問進：話すぞドイツ語V2（朝日出版社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の 3 基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

第1回～第2回 形容詞の格変化、人称代名詞 空腹などを訴える

第3回～第4回 話法の助動詞、未来形 外出に誘う

第5回～第6回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞 駅で列車の出発時刻などを尋ねる

第7回～第8回 ZU不定詞 相談にのってくれるように頼む 比較表現 物事を比べる

第9回～第10回 三基本形、過去人称変化、接続詞 ぶつぶつ文句を言う

第11回～第12回 現在完了形、過去完了形 何をしたかを尋ねる

第13回～第14回 受動形 招待される 関係文 休暇の計画を立てる

第15回 後期のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験 50%、演習 50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕「新生ドイツ文法」V 6 在間進 朝日出版社

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記（2）、（3）の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：前期と同じものを使用する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

語法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

自己紹介・アルファベット・発音
動詞の現在（1）・定動詞の位置
名詞の性・定冠詞（類）
動詞の現在（2）・重要な 3 つの動詞
動詞の現在（3）・命令形
不定冠詞（類）
複数形・男性弱変化・非人称主語
人称代名詞・疑問詞
前置詞
接続詞・分離動詞
動詞の 3 基本形・過去
完了形
話法の助動詞・未来形
形容詞・比較
zu 不定詞・分詞
受動態・再帰動詞
関係詞・接続法

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小阪清行他：新緑のドイツ語（第三書房）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の 3 基本形・過去
現在完了・過去完了
話法の助動詞・未来
形容詞の格変化・名詞化
zu 不定詞・man
比較
再帰動詞・非人称動詞
受動・分詞
関係詞・指示代名詞
接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

自己紹介・アルファベット・発音
動詞の現在（1）・定動詞の位置
名詞の性・定冠詞（類）
動詞の現在（2）・重要な 3 つの動詞
動詞の現在（3）・命令形
不定冠詞（類）
複数形・男性弱変化・非人称主語
人称代名詞・疑問詞
前置詞
接続詞・分離動詞
動詞の 3 基本形・過去
完了形
話法の助動詞・未来形
形容詞・比較
zu 不定詞・分詞
受動態・再帰動詞
関係詞・接続法

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小阪清行他：新緑のドイツ語（第三書房）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

発音、挨拶表現
動詞の現在人称変化（1）
冠詞と名詞の性と格
複数形
冠詞類、人称代名詞
動詞の現在人称変化（2）、命令形
前置詞、従属の接続詞
複合動詞、再帰、非人称の主語 es
話法の助動詞、未来形
動詞の 3 基本形、過去人称変化
完了形
形容詞
指示代名詞、関係代名詞
受動態、zu 不定詞、分詞
接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

平川要ほか著「改訂版・やさしいドイツ語－総合教材」(同学社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 渡辺アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を A B C から学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語・会話・ロールプレー・異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)

第2回 あいさつ

CD を使って、簡単なあいさつを覚え、ペアーで練習する。

第3週 発音・アルファベット

ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。

正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)

第4回 自己紹介

自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。

第5回 趣味と仕事

自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)

第6回 お買い物1

買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。

冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。

第7回 お買い物2

roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。

(市場、専門店、セール、環境問題)

第8回 中間まとめ

第9回 食生活

食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。

第10回 私の家族

自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。

第11回 願いがあります

困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。

話し方のマナーや注意点について説明する。

第12回 旅行

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書 ドイツ語インフォメーション neu 2 教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色々な問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

授業終了直後

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）
学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】「グレードアップドイツ語 ―新訂増補版―」(Deutsch Deutsche Deutschland)
【著者名】橋本政義 他 著
【出版社】郁文堂
【価 格】2500 円
【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200 円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）
学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

文字の読み方と発音

あいさつ

自己紹介、質問するとき

人物紹介、時間がありますか？

これは～です、兄弟姉妹

パン屋で、何時ですか？

道をたずねる、Paul の一日

かばん売り場で、はがきで連絡

薬を飲まなければなりません、Emma の夢

週末の予定、結婚式

灰かぶり（グリム童話）、ベルリン壁博物館

環境問題、ドイツの観光地

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20％程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小川さくえ他：一歩ずつ一楽しいドイツ語（同学社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を A B C から学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語・会話・ロールプレー・異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)

第2回 あいさつ

CD を使って、簡単なあいさつを覚え、ペアーで練習する。

第3週 発音・アルファベット

ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。

正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)

第4回 自己紹介

自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。

第5回 趣味と仕事

自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)

第6回 お買い物1

買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。

冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。

第7回 お買い物2

roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)

第8回 中間まとめ

第9回 食生活

食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。

第10回 私の家族

自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。

第11回 願いがあります

困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。

話し方のマナーや注意点について説明する。

第12回 旅行

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他) つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書 ドイツ語インフォメーション neu 2 教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色々な問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典 が必要

8. オフィスアワー

授業終了直後

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】「現代ドイツを学ぶための 10 章」(Kennzeichen.de junior)

【著者名】ウーテ・シュミット 他 著

【出版社】三修社

【価 格】2625 円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200 円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～15 回）。

文字の読み方と発音

あいさつ

自己紹介、質問するとき

人物紹介、時間がありますか？

これは～です、兄弟姉妹

パン屋で、何時ですか？

道をたずねる、Paul の一日

かばん売り場で、はがきで連絡

薬を飲まなければなりません、Emma の夢

週末の予定、結婚式

灰かぶり（グリム童話）、ベルリン壁博物館

環境問題、ドイツの観光地

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20％程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 小川さくえ他：一歩ずつ楽しいドイツ語（同学社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】「レアとラウラ」(Lea und Laura)

【著者名】市川明 他 著

【出版社】朝日出版社

【価 格】2400 円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200 円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A I、A II で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その 2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を A B C から学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語・会話・ロールプレー・異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)

第2回 あいさつ

CD を使って、簡単なあいさつを覚え、ペアーで練習する。

第3週 発音・アルファベット

ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。

正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)

第4回 自己紹介

自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。

第5回 趣味と仕事

自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)

第6回 お買い物 1

買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。

冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。

第7回 お買い物 2

roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)

第8回 中間まとめ

第9回 食生活

食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。

第10回 私の家族

自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。

第11回 願いがあります

困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。

話し方のマナーや注意点について説明する。

第12回 旅行

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他) つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書 ドイツ語インフォメーション neu 2 教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布 しますの、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

授業終了直後

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第11回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】「シンプルドイツ語 ー空欄補充式ー」（Am Ende wird getanzt）

【著者名】寺井紘子 他 著

【出版社】郁文堂

【価 格】2500 円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200 円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

アルファベート・発音

エリ、アナと出会う

春を楽しむ

デパートへ行く

兄弟を語る

演奏会に誘われる

マックスと音楽を語る

アナを食事に誘う

CD ショップを訪ねる

ゼミに参加する

おしゃれをする

バッハを聴く

昨日の出来事を話す

ミュンヘンに行く

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20％程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 春日正男他：ブラーヴォ！ブラーヴォ！ブラーヴォ！ー音楽から入るドイツ語ー（郁文堂）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を A B C から学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語・会話・ロールプレー・異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)

第2回 あいさつ

CD を使って、簡単なあいさつを覚え、ペアーで練習する。

第3週 発音・アルファベット

ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。

正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)

第4回 自己紹介

自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。

第5回 趣味と仕事

自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)

第6回 お買い物 1

買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。

冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。

第7回 お買い物 2

roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。

(市場、専門店、セール、環境問題)

第8回 中間まとめ

第9回 食生活

食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。

第10回 私の家族

自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。

第11回 願いがあります

困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。

話し方のマナーや注意点について説明する。

第12回 旅行

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。

駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他) つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書 ドイツ語インフォメーション neu 2 教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典 が必要

8. オフィスアワー

授業終了直後

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A I、A II で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など

・前置詞、形容詞・副詞の用法

・ドイツ語文の大原則その 2——副文

・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

アルファベート・発音

エリ、アナと出会う

春を楽しむ

デパートへ行く

兄弟を語る

演奏会に誘われる

マックスと音楽を語る

アナを食事に誘う

CD ショップを訪ねる

ゼミに参加する

おしゃれをする

バッハを聴く

昨日の出来事を話す

ミュンヘンに行く

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 春日正男他：ブラーヴォ！ブラーヴォ！ブラーヴォ！—音楽から入るドイツ語—（郁文堂）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語 B の内容を発展させる。

4. 授業計画

ドイツの社会や風物を描写したやさしいドイツ語の読み物を読む。

1. ドイツ語を学ぶ
2. 朝食
3. 労働時間
4. ドイツー森の国
5. 菩提樹
6. 整理整頓好き
7. ろうそくの光で
8. トーマスマン
9. 自分の意見
10. ドイツの手工業
11. クリスマスツリー
12. ウィーンの喫茶店

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60% 以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「希望のドイツ語新訂版 ―C D 付―」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語 B の内容を発展させる。

4. 授業計画

ドイツの社会や風物を描写したやさしいドイツ語の読み物を読む。

1. ドイツ語を学ぶ
2. 朝食
3. 労働時間
4. ドイツー森の国
5. 菩提樹
6. 整理整頓好き
7. ろうそくの光で
8. トーマスマン
9. 自分の意見
10. ドイツの手工業
11. クリスマスツリー
12. ウィーンの喫茶店

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60% 以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「希望のドイツ語新訂版 ―C D 付―」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取り入れながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

小塩節「新しいドイツ語 1 A」朝日出版社

8. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語B I German B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語 B の内容を発展させる。

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

1. 到着
2. ホテル探し
3. ホテルにて
4. レストランで
5. 買い物
6. アパート探し
7. バイキング
8. 招待される
9. 医者にて
10. 手紙

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：大谷弘道著「新・ドイツ語話し方教室」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語 B II German B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次の基礎ドイツ語 A を踏まえドイツ語の基礎を補完し、次の段階につながるドイツ語の学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～15 回）。

アルファベート・発音

エリ、アナと出会う

春を楽しむ

デパートへ行く

兄弟を語る

演奏会に誘われる

マックスと音楽を語る

アナを食事に誘う

CD ショップを訪ねる

ゼミに参加する

おしゃれをする

バッハを聴く

昨日の出来事を話す

ミュンヘンに行く

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 春日正男他：ブラーヴォ！ブラーヴォ！ブラーヴォ！—音楽から入るドイツ語—（郁文堂）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語 C I German C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語のより高度な表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式をより深く理解する

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

- ・人との関わり
- ・家族と友人関係
- ・健康と医療
- ・住環境と家事
- ・環境と自然
- ・旅行と交通

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ二～三週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、外国語の学習上必要である

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

ドイツ語 C II German C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語のより高度な表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式をより深く理解する

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

- ・食生活
- ・公的機関
- ・学校と教育
- ・仕事と職業
- ・余暇と文化的な生活
- ・政治と共同体

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ二～三週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、外国語の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。

②中国語の基礎文法事項を習得する。

③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。

②中国語の基礎文法事項を習得する。

③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音 I 声調、単母音、二重母音、三重母音
3. 発音 II 鼻母音、子音
4. 発音 III 発音のまとめ①
5. 発音 III 発音のまとめ②
6. 第一課 人称代名詞、“是”・“的”の用法
7. 第二課 動詞述語文、疑問詞疑問文
8. 第三課 存在文、形容詞述語文、量詞
9. 復習
10. 第四課 指示代名詞、連動文
11. 第五課 “了”・“過”の用法、選択疑問文
12. 第六課 副詞“都”の用法、助動詞“想”の用法
13. 復習
14. 第七課 前置詞“在”の用法、助動詞“能”・“会”の用法
15. 総合復習
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき 40 人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『どんどん吸収中国語』（木村裕章・篠原征子・浅野雅樹 光生館）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音Ⅰ 声調、単母音、二重母音、三重母音
3. 発音Ⅱ 鼻母音、子音
4. 発音Ⅲ 発音のまとめ①
5. 発音Ⅳ 発音のまとめ②
6. 第一課 人称代名詞、“是”・“的”の用法
7. 第二課 動詞述語文、疑問詞疑問文
8. 第三課 存在文、形容詞述語文、量詞
9. 復習
10. 第四課 指示代名詞、連動文
11. 第五課 “了”・“過”の用法、選択疑問文
12. 第六課 副詞“都”の用法、助動詞“想”の用法
13. 復習
14. 第七課 前置詞“在”の用法、助動詞“能”・“会”の用法
15. 総合復習
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき 40 人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『どんどん吸収中国語』（木村裕章・篠原征子・浅野雅樹 光生館）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90％、平常点 10％、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。

②中国語の基礎文法事項を習得する。

③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映

2. テキスト第十一課 “把”構文

3. テキスト第十二課 禁止表現

4. テキスト第十三課 的表現

5. テキスト第十四課 経験文

6. まとめ 復習

7. テキスト第十五課 値段の表現①

8. テキスト第十五課 値段の表現②

9. テキスト第十六課 存現文①

10. テキスト第十六課 存現文②

11. テキスト第十七課 受身文①

12. テキスト第十七課 受身文②

13. テキスト第十八課 使役文①

14. テキスト第十八課 使役文②

15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。

②中国語の基礎文法事項を習得する。

③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習

2. 第八課 年月日・時間量の表し方、助動詞“打算”・“要”の用法

3. 第九課 動作の回数の表し方、二重目的語文

4. 復習

5. 第十課 助詞“着”の用法、動詞の重ね型、程度副詞

6. 第十一課 結果補語、方向補語

7. 第十二課 副詞“在”の用法、比較構文、禁止表現

8. 復習

9. 第十三課 方位詞、変化を表す“了”の用法、強調構文

10. 第十四課 接続詞の用法、使役文

11. 第十五課 “把”構文、状態補語の表現

12. 総合復習（Ⅰ）

13. 総合復習（Ⅱ）

14. 総合復習（Ⅲ）

15. 総合復習（Ⅳ）

16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『どんどん吸収中国語』（木村裕章・篠原征子・浅野雅樹 光生館）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第八課 年月日・時間量の表し方、助動詞“打算”・“要”の用法
3. 第九課 動作の回数の表し方、二重目的語文
4. 復習
5. 第十課 助詞“着”の用法、動詞の重ね型、程度副詞
6. 第十一課 結果補語、方向補語
7. 第十二課 副詞“在”の用法、比較構文、禁止表現
8. 復習
9. 第十三課 方位詞、変化を表す“了”の用法、強調構文
10. 第十四課 接続詞の用法、使役文
11. 第十五課 “把”構文、状態補語の表現
12. 総合復習（Ⅰ）
13. 総合復習（Ⅱ）
14. 総合復習（Ⅲ）
15. 総合復習（Ⅳ）
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『どんどん吸収中国語』（木村裕章・篠原征子・浅野雅樹 光生館）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 把 構文
3. テキスト第十二課 禁止表現
4. テキスト第十三課 的の表現
5. テキスト第十四課 経験文
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 値段の表現①
8. テキスト第十五課 値段の表現②
9. テキスト第十六課 存現文①
10. テキスト第十六課 存現文②
11. テキスト第十七課 受身文①
12. テキスト第十七課 受身文②
13. テキスト第十八課 使役文①
14. テキスト第十八課 使役文②
15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習 発音
2. 復習 文法・語彙
3. 第十一課 進行・持続の表現、将然形
4. 復習
5. 第十二課 方向補語、結果補語、動量補語
6. 復習
7. 第十三課 無主語文、固定構文（Ⅰ）
8. 復習
9. 第十四課 固定構文（Ⅱ）
10. 復習
11. 第十五課 文法のまとめ
12. 復習
13. 総合復習（Ⅰ）
14. 総合復習（Ⅱ）
15. 総合復習（Ⅲ）
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝 朝日出版社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習 発音
2. 復習 文法・語彙
3. 第十一課 進行・持続の表現、将然形
4. 復習
5. 第十二課 方向補語、結果補語、動量補語
6. 復習
7. 第十三課 無主語文、固定構文（Ⅰ）
8. 復習
9. 第十四課 固定構文（Ⅱ）
10. 復習
11. 第十五課 文法のまとめ
12. 復習
13. 総合復習（Ⅰ）
14. 総合復習（Ⅱ）
15. 総合復習（Ⅲ）
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝 朝日出版社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習 発音
2. 復習 文法・語彙
3. 第十一課 進行・持続の表現、将然形
4. 復習
5. 第十二課 方向補語、結果補語、動量補語
6. 復習
7. 第十三課 無主語文、固定構文（Ⅰ）
8. 復習
9. 第十四課 固定構文（Ⅱ）
10. 復習
11. 第十五課 文法のまとめ
12. 復習
13. 総合復習（Ⅰ）
14. 総合復習（Ⅱ）
15. 総合復習（Ⅲ）
16. 試験

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝 朝日出版社）

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. 発音のまとめ①
2. 発音のまとめ②
3. 第一課 名詞述語文
4. 第二課 自己紹介
5. 第三課 形容詞述語文
6. 復習
7. 第四課 数・日付の言い方
8. 第五課 動詞述語文
9. 第六課 存在文
10. 復習
11. 第七課 助動詞・反復疑問文
12. 第八課 助動詞
13. 第九課 経験の表現など
14. 第十課 料理を注文する表現など
15. 復習
16. 試験

5. 評価の方法・基準

期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『〈新版〉中国語 10 課』（方如偉・王智新・鋳屋一 白水社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

中国語 A Chinese A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化 会話

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基礎的な文法をマスターする。
- ③基本的な会話ができるようになる。
- ④中国に対する知識を増やす。

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習
2. 第1課 介詞①・連体修飾語
3. 第1課 状態補語
4. 第2課 可能①・「すこし」
5. 第2課 介詞②③・時間量
6. 第3課 二重目的語・連動文
7. 第3課 完了
8. まとめ 第1課～第3課
9. 第4課 動作の進行・介詞④
10. 第4課 経験・動量補語
11. 第5課 介詞⑤・結果補語
12. 第5課 状態の持続・場所語
13. 第6課 可能②
14. 第6課 「太～了」・お金
15. まとめと復習

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『楽しい中国語コミュニケーション 改訂版』（高橋良行・村上公一・陸明 同学社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

中国語 B I Chinese B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化 社会事情

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基本的な文法をマスターする。
- ③中国に対する知識を増やす。
- ④簡単な文章の聴きとり・作文ができるようになる。

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・本文篇に入る前に
2. 第1課 はじめまして
3. 第2課 王府井大街
4. 第3課 ファストフード
5. 第4課 日本のアニメ
6. 第5課 インターネット
7. 第6課 一人っ子
8. 第7課 自家用車
9. 第8課 北京胡同
10. 第9課 休日の過ごし方
11. 第10課 草食系男子
12. 第11課 住居
13. 第12課 春節の過ごし方
14. 第13課 月光族
15. 第14課 食文化の変化

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『キャンパス中国語 読解コース』

(平井勝利 監修 村松恵子・于小薇・伊藤正晃 著 白帝社)

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

中国語 B II Chinese B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化 社会事情

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする
- ②基本的な文法をマスターする
- ③中国に対する知識を増やす
- ④簡単な文章の聴きとり・作文ができるようになる

4. 授業計画

日常生活や精神生活のさまざまな場面における表現方法を知る：

- ・対人関係
- ・住環境
- ・外国文化の受容
- ・交通事情
- ・食生活とその変化
- ・公的機関
- ・近年の社会事情
- ・仕事と職業
- ・余暇と文化的な生活
- ・伝統的な祭日

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ一～二週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

定期試験に平常点を加味し、合計 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席することが単位取得の必須条件である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

ロシア語Ⅰ Russian I

対象学科（コース）：全学科

学年：3 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名
 （名詞の単数と複数）
 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語
 （動詞の人称変化形）
 第10回 テーマ「第2課②」趣味（名詞の対格）
 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
 第15回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

5. 評価方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20 分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

ロシア語Ⅱ Russian II

対象学科（コース）：全学科

学年：3 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

I に引き続き、ロシア語の文法を学修する。テキストの講説とその応用としての対話練習を行う。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介（名詞の前置格）
 第2回 テーマ「第3課②」職業（形容詞）
 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活（動詞の過去）
 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
 第6回 テーマ「第4課③」訪問（動詞の体）
 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
 第8回 テーマ「第5課①」余暇（動詞の未来形）
 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
 第10回 テーマ「第5課③」訪問（動詞の命令形）
 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 第15回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

5. 評価方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20 分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

韓国（朝鮮）語Ⅰ KoreanⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいえないです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきます。この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国の文化

3. 到達目標

- ①韓国語の文字と発音の習得
- ②基礎的な文法の学習
- ③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

5. 評価の方法・基準

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

「楽しく学ぶ」ことがモットーの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題、小テストなどが苦にならない、やる気ある学生の受講を望みます。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介します。）

8. オフィスアワー

E-mail：gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国（朝鮮）語Ⅱ KoreanⅡ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

基本的には前期の「韓国（朝鮮）語Ⅰ」の続きとして進めていきます。授業では、韓国（朝鮮）語の読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を習得します。

2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国の文化

3. 到達目標

- ①基礎的な文型及び文法の学習
- ②やさしい日常会話の習得
- ③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2と時刻の読み方
- ・自己紹介
- ・助詞 1、2、3・楽しい会話 1、2
- ・否定形
- ・過去形
- ・尊敬系とその他

5. 評価の方法・基準

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①定期試験、②出席、③宿題や発表、小テストによる総合評価。

7. 教科書・参考書

韓国（朝鮮）語Ⅰ参照。

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店

8. オフィスアワー

E-mail：gyelc0926@yahoo.co.jp